

表1 非インスリン治療2型糖尿病患者における SMBG の有効性に関するシステマティックレビュー
(2013年10月20日検索)

データ ベース	タイトル	発表年	レビュー 文献数	レビュー 対象者数 (RCTの対象者数)	主要結果
コクラン ライブラリ	非インスリン治療2型糖尿病患者における SMBG の有用性についての検証 ¹⁾	2012	11	- (3,259)	12件のRCTをレビューした。SMBGは、非インスリン治療2型糖尿病患者の血糖管理への効果は非常に少ない
MEDLINE	非インスリン治療2型糖尿病成人患者の血糖コントロールにおける SMBG の効果のレビューのための自己調整に関するコモンセンスモデルの使用 ²⁾	2013	26	18,710 (2,785)	RCT(11件)、横断調査(11件)、縦断調査(4件)とでは、SMBGによる血糖コントロール改善の可能性が示唆された。
	非インスリン治療2型糖尿病患者の SMBG に関する患者個人別データのメタアナリシス ⁴⁾	2012	6	- (2,552)	6件のRCTをレビューした。SMBGを実施の有無の比較による、非インスリン治療2型糖尿病について、臨床的意義*を見出せるものではなかった
	非インスリン治療2型糖尿病患者における SMBG の有効性：システマティックレビューとメタアナリシス ⁵⁾	2010	25	- (2,270)	25件の内、8件がRCTであり、メタ分析を実施した。SMBGは、患者に対する教育の有無にかかわらず、ヘモグロビンA1cが有意に低下した
	非インスリン治療2型糖尿病患者の SMBG：システマティックレビュー ⁶⁾	2005	6	3,270 (1,285)	RCTは6件であった。SMBG群は対照群に比べ、有意なHA1cの低下がみられたがwell-beingとQOLに対する効果は認められなかった。

*統計学的有意差は標本数を大きくすれば達成できる。臨床的意義は、改善が臨床家が改善したと判断できる値である。例えば、大規模研究で、研究対象者のHbA1cの平均値が7.1から7.0に低下し、統計学的な有意差がでた場合でも、臨床的には0.1の低下では、血糖値が改善したとは考えない。